



長町中は今

ともに 上をめざして 長中

《校訓》

自主
友愛
健康
創造

平成29年3月13日

仙台市立長町中学校

学校だより 第21号

電話：(248)1444

<http://www.sendai-c.ed.jp/~nagajh00/>

321名の巣立ち 第70回卒業証書授与式



3月10日(金)本校体育館を会場に第70回卒業証書授与式を行いました。当日はたくさんの保護者の方々と40名を越えるご来賓の方々においでいただき、321名の卒業生の旅立ちを見守りました。

卒業生に一人ずつ卒業証書を手渡した新山校長は、式辞の中で「こつこつと努力を積み重ねることで夢に近づき、やがて目の前の目標に変わる。そう努力することで心の土台が形作られる。」また、「オリンピックのメダリストの言葉には必ず、周りの方々

への感謝の言葉がある。誰でも多くの人の支えがあって、今の自分がある。」と、「努力することの大切さ」「感謝することの大切さ」をはなむけの言葉として贈りました。

その後、在校生を代表してSHさんが先輩方への感謝の言葉を「卒業生を送ることば」の中で切々と述べ、そして卒業生を代表してSKさんは「卒業生のことば」の中で、卒業の歌の歌詞になぞりながら「道、君と歩いた今日まで 特別な時間をありがとう」と周りの方々への感謝を述べました。

最後に、「さよなら友よ」と「道」を合唱し、感動の中で式が終わりました。卒業生が希望を胸に目標に向かって力強く歩いていくことを祈りたいと思います。



『卒業生のことば』

卒業生代表 SK

真新しい制服に身を包み、新たな生活に不安と期待の念を抱いた入学式から、すでに三年の月日が経ちました。「優元・集中」からスタートした青学年は、心身ともに大きな成長を遂げました。「人に優しく、メリハリをつけた生活を目指す「優元・集中」から、互いの存在を認め合い、正しい行動をする「共受・正動」、そして最終学年では、高い志をかかげ、より良いものを創り上げる、勢いがある学年、「志高・創勢」を目標としてきました。私たちが歩んできた道のりは、決して楽なものではありませんでした。部活動での努力が報われなかった時。体育祭や合唱コンクールでクラスがまとまらなかった時。予餞式の練習が進まなかった時。そして、勉強を頑張っても成績が上がらなかった時。この道のりの中で、幾度も転んで立ち上がってきました。

勇気を出して再び走り始めても、ゴールが近づく気配を感じられず、挫折しそうにもなりました。追い打ちをかける雨に無力感を覚えました。しかし、そこから立ち上がるたびに、周りの景色は次第に変わっていきました。

大会やコンクールで満足する結果を得た時の喜び。負けたけれどやり切ったという満足感。合唱コンクールで歌い終えた時のクラスのまとまりと達成感。体育祭の応援合戦での拍手と歓声……。中でも特に印象深いのは、私たち青学年が初めて長中の中心となった昨年の予餞式でした。先輩方が涙を浮かべながら退場される姿は、今でも脳裏に焼き付いています。私たち青学年は自らの価値を見出すとともに、周りの方々から常に温かく支えられていることを強く感じました。

様々な経験を共にし、喜怒哀楽を分かち合い、共に成長しぶつかり合ってきた友達。困ったときにはいつでも手を差し伸べ、私たちの「第二の親」として、優しく時に厳しく接して下さった先生方。いつも温かいまなざしで私たちを見守り、育ててくださった地域の皆様。そして、私たちを十五年間大切に育て、どんなときも無条件に愛してくれた家族。

たくさんの方々とお会い、そして支えていただいたからこそ、ここまでの長く、険しい道を乗り越えることができました。今、私たちが見ている景色は格別なものです。遠くに見える自分の夢やこれからの未来に思いを馳せる私たちの表情は、とてもたくましいものとなりました。

在校生の皆さん。お別れの時が来ました。私たちが、手本となる先輩であったかどうかはわかりません。しかし、この長町中の伝統を受け継ぎ、発展させようと精一杯努力してきたつもりです。後輩の皆さん。どうか、長町中の伝統という名の襷を、私たちの熱意を繋いでいってください。どんな時でも自信をもって己の道を貫いてください。そして、70年目の節目を迎えた長町中学校をさらに発展させていってください。

今日から私たち一人ひとりは、何千何万もの可能性を秘めた未来へ向かって、それぞれの道を歩むこととなります。不安はもちろんあります。しかし、遠方の光へ希望も持っています。恐れず、ひるまずに更なる高みを目指していきます。

(一部抜粋)

